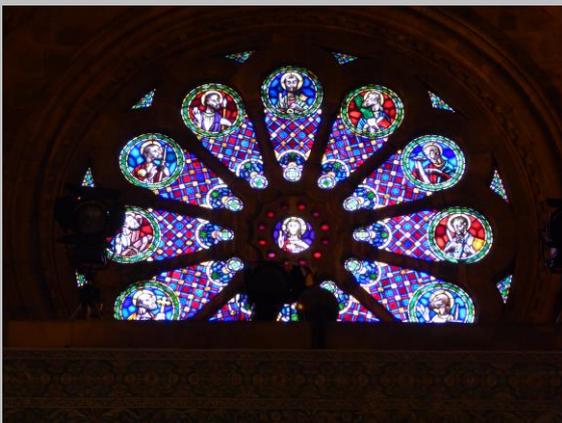


01.リスボン大聖堂



リスボン市内にある大聖堂で最も古い教会で、1147年から1310年代頃に完成した後期ロマネスク様式による建物。その後、13世紀後半に背面にゴシック様式の回廊が増築された。リスボンも日本同様、地震が多く、14-16世紀に数度の地震に見舞われたが、1755年のリスボン地震は、世界的にも有名でマグにチュード8.5-9.0の大地震でこの大聖堂も廃墟と化した。20世紀初頭に現在の姿に再建された。現地には立ち大聖堂を見上げると外壁面にその痛々しい姿が見て取れたが、リスボン市民にとっての心のよりどころであり、長きにわたり再建に尽力したのが分かる。中に入るとロマネスク様式の為、ゴシック様式のようなステンドグラスが多様された華やかになるが落ち着いた趣で、西側ファサード上部にあるバラ窓1点からのステンドグラスの光が注ぎ綺麗だった。有名なローマサンピエトロにあるミケランジェロの石像のピエタ像とは、異なり作者は分からないが、木彫りでできていて、着色され、ところどころ剥げている部分があるが、返って人間味のある温かさを感じ地域住民に愛されている教会のように思えた。実際にミサ等で使われている様子を見てみたかった。